

SmartAnalysis

DXコラム2021 第4回

3年後、貴社は生き残れますか？ パチンコホール企業・DX投資で明暗 今、SmartAnalysisを選ぶ理由

今回は、RPAの活用について、基本概念を紹介します。

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション・ロボット）による業務の自動化とは、PCなどで行っている、一連の作業を、ソフトウェアで自動化するツールのこと。

パチンコ業界でもすでに、RPAを導入している企業は、多数ありますが、ゴール設定が明確でない会社や、業務効率化につなげていない企業、機能を使いこなせていない法人も多いと感じています。

人手不足・確保に課題の多いパチンコ業界ですが、従前のように給与水準を高めることで、人材を確保するのも限界に。また、店舗本部間の定時報告、会議資料作成や各種集計作業、自店・競合店・全国データの情報収集など、PCを用いた業務は、山積しています。

このような状況の中で、残業を増加させるのか、働き方改革で必要な業務を削減するのか、従来のやり方を踏襲すれば、従業員が疲弊し、接客の劣化、顧客満足度の低下、結果として、経営悪化という悪循環に陥りかねません。

上記の解決策の一つに、RPAの活用をお勧めします。RPAは万能ではありませんが、出来ることをしっかりと理解し、既存システムの枠組みを根本から見直すことで、業務の役割と適正人員配置が変わります。RPA導入の成否は、BPRとの併用、ビッグデータの活用や、システムとの連動がポイント。

ント。

RPAの活用失敗の事例をあげますと、RPA活用や業務改善を、従来業務の延長上に捉えること。

例えば、社内報告のあり方を見直すに紙とFAXの運用を継続するとか、定例の会議資料をただ自動化するとか、従来のシステムの枠組みの中でRPAに自動入力させるといった対応は、根本的な業務改善とはいえません。

そこで重要なのがBPRです。BPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）とは、企業の目的や目標を達成するために、組織構造や業務フローを再構築すること。

まずは、足元の業務を見直し、無駄なフローや根本的に意味のない業務を徹底的に洗い出す。このような業務を根本から駆除することが必要です。日々の業務を棚卸し、一つひとつの業務の関連性や本来の目的との整合性、必要性を見直すことが必要不可欠なのです。

業務システムの再構築やRPAの活用は、業務改革の結果に基づき、必要と判断した業務に対し、実施することで最大の効力を発揮します。当社がサポートするRPA活用の具体的な活用事例については、次以降、説明します。

プレミアムデータベースの構築



SmartAnalysis

DXコラム2021 第3回

3年後、貴社は生き残れますか？ パチンコホール企業・DX投資で明暗 今、SmartAnalysisを選ぶ理由

引き続き、DX活用の有無によるパチンコホールの影響について、近未来の話をさせていただきます。

前回の競合店における台別の出玉率の把握に続き、今回は、機械メンテナンスにおけるリスクの極小化について話します。

機械メンテナンスにおける目的は、稼動と粗利のバランスの追求です。また、同時に短期的な視点ではなく、中長期的な最大利益をどのように確保するのかを考えることと当社では定義します。

そのためには、粗利の取りすぎや取り漏れによる顧客離れ、ロスを極小化することが重要です。

一方で、労働環境や人手不足の状況から、すべての台を完全にコントロールすることは難しく、意図した対応が出来ないのが実情のホールも多いのではないのでしょうか。

適正な機械メンテナンスを実施するには、適切な予算設定から、AIによる店舗機種の稼動予測や競合店の機種別稼働率・支持率・出玉率の把握、全国データや地域データの機種別メンテナンス状況までを把握することが重要であり、根拠のない予算から算出する粗利達成を目的としては、たとえば目の利益を確保できても、中長期的な利益は確保できず、会社の将来は、より厳しいものにならないを得ません。

ホール経営者による店舗別の適正粗利の把握や店舗による確実なメンテナンスの構築が不可欠である。

り、このような状況を打開するためには、アナログでの運用には限界があるのです。そこで、DX活用が必要になります。

当社は、クライアントの状況に合わせたDX構築のサポートをしています。まずは、自社独自のデータ収集体制の構築とBI（ビジネスインテリジェンス）の活用。BIとは、企業の各部署がそれぞれに蓄積している膨大なデータを、収集・蓄積・分析・加工し、経営戦略のための意思決定を支援することです。

最近では、さまざまなデータ活用ツールがありますが、自社データを他社と共有するシステムでは、競争優位に立つことが難しくなります。

次に、AIによる稼動予測インフラの構築。

自社データ、競合店データ、全国データを元に、商圈の実態に即した店舗独自の稼動予測環境の構築が重要なのです。

最後に、AI活用により適正メンテナンスを実施できていない台やメンテナンスの難しい機種を自動把握し問題のある台を抽出。必要な担当者へ自動通知します。

繰り返しになりますが、リスク極小化には、上記のようにDX活用が不可欠なのです。

プレミアムデータベースの構築



SmartAnalysis

DXコラム2021 第2回

3年後、貴社は生き残れますか？ パチンコホール企業・DX投資で明暗 今、SmartAnalysisを選ぶ理由

今回は、DX投資の明暗はどこか、他業界の近未来に絡めて、話します。

最近、アマゾンエフェクトという言葉をよく耳にします。アマゾンエフェクトとは、ネット通販最大手のアマゾン・ドット・コム（以下、「アマゾン」）が進出する小売りやアパレル業界で、業績や株価の影響を受け、トイザらスやシアーズ・ホールディングスなどの名門企業が次々と経営破綻している現象のこと。背後にはデジタルがもたらすビジネスの本質的な変化があります。

そんな中でも、数年前まではアマゾンエフェクト銘柄といわれていたウォルマートが、DX化の成功により、アマゾンをしのご存在として脚光をあびています。背景には、DX投資を急拡大していることがその要因として考えられます。ウォルマートによるDX投資の肝は、アマゾン同様に愚直に顧客の声を聞いた対応、つまりはCSとCXです。CXとは、日本語では「顧客経験価値」「顧客体験価値」と訳されます。

その本質は、デジタル技術を駆使して、すべてを顧客中心に組み立てる「カスタマーファースト思考」のビジネス展開を行うことにほかなりません。

では、パチンコホール業界の近未来はどうなるのでしょうか？

今回は、商圏分析の変化がテーマです。本来の商圏分析とは、競合店の経営を知ること、顧客を知ること。

現在、パチンコホール業界ではさまざまな商圏情報があれています。が、有効活用できていない法人が多い状況です。

当社の提供するDXを活用すると何ができるのかを話します。

DX活用により、各店舗の設置台情報、入替情報、台ごとの差玉や稼働情報、大当り等の機械特性、商圏内顧客による機械支持率や稼働率、競合店の機械予算の把握が可能になります。

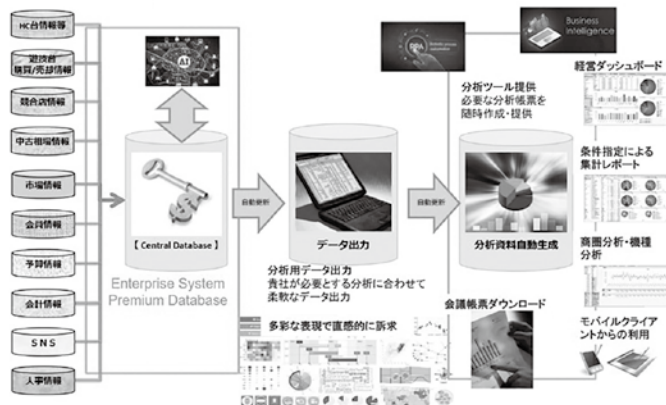
つまりは、情報を制して優位に戦うことが可能となります。

一方、DX弱者企業はどのようなのでしょうか？

インターネット上の勝手ブログや勝手サイトでは、ホールごとのイベント日の差玉や出玉率の情報が公開されています。既に一部のユーザーはパチンコホールの差玉状況を判断しSNSなどでホールを判別する情報を拡散しています。このような情報の活用が広がり、大多数のユーザーが店舗の努力や本質を見ることができなくなり、どの店が良い・悪いといった判断をしています。俯瞰的な情報をコントロールせずに営業しているホールが数年後さらに衰退するのは必然です。

当社がサポートするサービスのコアに、情報にコントロールされる立場からコントロールする立場への転換があります。情報を制するか、情報にのまれるか、企業の明暗は目の前に迫っています。

プレミアムデータベースの構築



SmartAnalysis

DXコラム2021 第1回

3年後、貴社は生き残れますか？

パチンコホール企業・DX投資で明暗 今、SmartAnalysisを選ぶ理由

新型コロナウイルスの感染拡大で消費行動が大きく変わるなか、デジタルトランスフォーメーション（DX）の巧拙が明暗を分けており、後れを取る企業の淘汰は進んでいます。経済産業省によるDXの定義は、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用することで、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革する。同時に、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」とされています。

現在パチンコホール業界を取り巻く環境は過渡期であり、さまざまな要因への対応が必要不可欠な状況。

遊技機においては、旧規則機の順次撤去、出玉性能や売上性能の低下。業界環境においては、消費税増税、禁煙化、働き方改革、ギャンブル依存症対策への対応など、情報管理と速やかな施策の実施がますます求められています。

IT分野に関しては、100年に1度の大きな変化といわれているデジタルシフト（ビッグデータやIoT、AI、RPA、SNS、5G、デジタルマーケティングなど）による情報格差の拡大が顕著になっており、デジタル技術の本格的な活用と成功は経営者の意識改革と変化対応可能なツール、人材教育にかかっています。

DXを実行していくためには、データの利活用が鍵となります。そのため、データを蓄積・処理する

ITシステムが、環境変化、経営事業の変化に対し、柔軟に、かつスピーディーに対応できることが必要です。貴社のシステムの詳細は現状はどうか？ DXを実行するため、既存システムの刷新の必要性や実行プロセス、経営層・事業部門・情報システム部門のあるべき役割分担が出ていますか？

3年後、生き残るためには、デジタル／アナログの区別なく経営判断や業務判断に必要なデータがリアルタイムに把握できる仕組みが必須であり、同時に無駄がないことが重要です。

現在、経営判断や業務判断のためにどのような情報に基づき、どのように判断しているのか、一つずつ明確にする。それと同時に、優先順位を付けることが重要であり、システムありきではなく、業務プロセスをしっかりと見直したうえで、何が自社にとって必要であるのか、それをクリアにし、システム構築することが肝要です。

『SmartAnalysis』は、本業の利益向上に直結する計画・実績対比と進捗即時把握、稼動／粗利のバランス、購入撤去判断、適正人員配置、作業業務の極小化とデータに基づく知的労働環境の構築など、最低限のコストで、最高のパフォーマンスを導くための独自システム構築を推進します。

次月以降、DX化により、パチンコホールがどのように変わるのかを解説いたします。

プレミアムデータベースの構築

